

# 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年12月10日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100583
法人名	医療法人甲和会
事業所名	グループホームなごみ
所在地	鹿児島県鹿児島市甲突町24番16号 099-224-3106
自己評価作成日	H30年10月25日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	-----------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成30年11月24日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームなごみは、福島内科医院が併設され緊急時対応がスムーズに行えるようにしています。場所は四季折々の様子が感じられる甲突川沿いにある施設です。散歩の時は甲突川沿いに車椅子対応のループもあり個々の体力に合わせリハビリも兼ねて実施しています。地域の方々との関わりが大切だと考え交流会などを行い、地域の中で自立した生活ができるように支援しています。家族、知人、友人などの面会もあり、入居者様の普段の生活や生活歴の情報から入居者様の気持ちに寄り添う支援につながるよう努力しております。ユニットリーダーを中心に職員間で各入居者様の支援について情報を共有し、職員の各自の経験も生かし支援しています。外部レクリエーションは、担当者らが計画を立て、多角的に検討し、ご家族の協力も得ながら事故のないよう参加者全員が外部レクリエーションを楽しんでいただけるように行っております。

○当ホームは、鹿児島市内の中心市街地に近く、甲突川沿いの公園や緑地帯木々河川敷を往来する人々やランドゴルフを楽しむ市民がおられたり、毎年、桜の時期は満開の桜並木が楽しめる。2階ユニットからは四季折々の風景を眺望することができる。また、中庭では毎年、利用者と職員が花火を楽しむなど夏の恒例になっている。

○隣接した母体の医療機関とは、協力関係が築かれており、緊急時や重度化、+看取りについても医療連携が24時間図られており、利用者や家族の信頼や安心感を得ている。現在、看取り実施中であり主治医、家族、職員を始め関係機関と連携しながら終末期ケアに取り組んでいる。

○火災想定避難訓練は消防署の協力をもらいながら、家族の参加や地域の協力体制を築きながら年2回実施している。火災時は、川沿いの公園が避難場所だが、災害時の避難場所も決めており定期的に確認している。水、5年保存食セレクトセット、レトルト食品、自家発電を備えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「あるがままの貴方にそっと寄り添う」の理念を念頭に、地域の中での生活を実践できるよう施設内の各所に理念を掲示し共有に努めている。	開設当初からの理念は、事業所の各所に掲示され、日々職員の意識向上を図り、理念に沿ったケアの実現に向けて取り組んでいる。職員は、毎朝申し送り時に唱和し、ケアカンファレンス時に理念に触れる機会を設け話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の児童センターや小学校との交流や町内会へ参加し地域の行事参加をを行い交流を図っている。	町内会の地域行事を活用して交流したり、隣接の地域密着型通所介護の利用者との交流、ホームの行事やボランティアなどの受入れを積極的に行い地域を意識した生活の実現を目指している。児童センターの低学年児童などや小学生の慰問などは利用者や認知症の理解に繋がっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	近隣とのつながりは限られたものではあるが、児童センター等との交流や町内会の行事参加を以て認知症に対する理解をしていただけるよう努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員、町内会、ご家族、通所介護事業所や児童センター、長寿あんしんセンターから意見や助言を聞き支援の向上に活かしています。	定例化された会議は、隣接の通所介護とも年2回合同開催され、ともに地域の課題やホームの悩み、利用者の生活状況など報告したり、相談ごと話し合われている。管理者は、より家族が参加しやすいよう理解を求めながら話し合われた意見をサービスの向上に活かすよう検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿あんしんセンターとの連携を図り運営推進会議などで状況報告や情報交換の場としている。	生活保護受給者も多く担当職員との連携があり、市担当者との面談や電話などを通じて事業所の取り組みなどを説明しながら相互に協力関係を築いている。市開催の研修会への参加や介護相談員の受入れを毎年している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日拘束をしている各自に身体拘束の理由や拘束時間を記入し客観的に判断して、情報の共有と月1回の会議を行い、拘束のないケアができるように努めています。	身体拘束等の適正化委員会を毎月開催し、現在実施中の身体拘束対象者の事案を含め職員全員で話し合っている。職員は、あらゆる介護や生活の場面で身体拘束に触れる行為や言葉使いなど身体拘束に触れないか常に見極め意識を高めながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。往来の交通量や不審者対策もあり、正面玄関は施錠しているが他は常時解放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修や、法人内で意見交換を行い虐待が見過ごされないよう情報を共有し、互いに注意ができるような環境づくりに努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている利用者様の経験を基に、管理者や研修に参加した職員を中心に情報を共有し、基礎的な理解が出来るように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時の契約は、書面を用いて個別に面談を行い十分な理解と納得が得られるように丁寧な説明に努めている。また内容の変更の際も同様に行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会や電話連絡時、運営推進会議への参加の際に意見や要望を引き出せるように努めている。また意見箱を設置し、職員間で共有し運営に反映できるよう努めている。	職員は、家族から職員の異動や交代の説明について職員の顔写真を掲示するなど工夫しているが、今後も利用者や家族の意見や要望などには、解りやすく回答するよう努めたいと考えている。担当制にしており、家族との関係性を良好に保ち忌憚なく意見などが出せる雰囲気作りに配慮している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務のなかで定期的に各ユニットリーダーが拾い上げた意見、要望を法人内での会議を経て検討し、運営に反映しています。	建物の構造上の関係もあり、男性職員が多いが、20代から30代を占める若手の職員や有資格者も多い。職員の休憩時間は早番から順次決まった休憩を取ることができるよう配慮し、年1回個人面談して意見、提案を聞く機会を設けている。また、懇親会やボーリング大会、法人のイベントなどに参加して職員間の親睦を深めている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の希望や条件にあった就労が出来るように常日頃の勤務状況の把握を行い、代表者は面談を実施し意見や要望を確認し職場の環境整備に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>日頃のコミュニケーションや意見交換や、グループホーム内部の研修を掲示し積極的な参加をつのり、職員個々の力量や実績、努力を理解してスキルアップできるように努めています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営推進会議に他グループホームに相互参加し意見交換をおこないサービスの質の向上に努めています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居支援を開始する前に先入観を持たずに面接を行い、ご本人の思いやご家族の不安な事を聞き取り安心した生活が送れるように工夫し職員間で情報の共有を図っている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用者契約時のご家族、利用者への環境変化による不安や思いを聞き、支援への問題の解決に向け支援開始後もご家族と一緒に協力できる関係づくりに努めています。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者様にとって安心、満足できる支援は何かを聞き取りなどから考え家族の思いも尊重し対応をしています。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者様ご本人のこれまでの経験や人生観を踏まえて決定権を自己判断していただき共に支えあう関係を築いていけるよう心がけています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と利用者様の絆を思い、大切な家族を介護させていただいている事を念頭に置き、行事への参加や面会時の会話、相談を以て、共に支えていく関係を築けるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人や親戚の方が面会に来やすいような雰囲気づくりに努めまた自宅での写真や品物を飾って頂いております。地域の行事への参加などを通じて近隣の方達との関係づくりにも努めています。	手紙や葉書などの代読やアルバムを見ながら会話したり、行事の時の写真は家族に差し上げるなどして本人との時間の共有化を図っている。また、家族と外食したり墓参りに外出するなどして関係性が途切れることがないよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が一人ひとりの性格や思い「言葉で表現できないものも含む」を把握し、問題把握に努めています。また日常生活やレクリエーションを通じて会話が持てるような雰囲気作りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出合いを大切にし退去後もご家族に電話でご本人の様子をお聞きして良い関係づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症によって自分の望みを言葉に出来ない利用者様に対し、利用者様本位に努め、普段から希望や不安な事の早急発見に努めています。	日常生活の中で試行錯誤しながら本人の思いに触れるよう取り組み、職員や家族間で情報を共有し、自立に向けたケアや本人の主体性を検討しながら本人本位に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族から今までの生活歴や職業歴などの情報を収集し、また得意なことや趣味などもお聞きして継続して行える環境づくりに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活ペースを大切にし、ご本人の残存機能を活かして本人のペースでできることをしていただく支援を行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、現状に即しているのか、もっといい方法や真のニーズの追求などについてカンファレンスを行い検討し、日々のきずきも含めその都度見直を行っています。	本人が意欲的に取り組める生活行為などを検討、日課や本人の役割が発揮できるよう介護計画を作成し、短期目標の設定期間にモニタリングを実施している。職員は、3ヶ月ごとにカンファレンスを開催し、計画の見直しにも柔軟に取り組んでいる。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の身体状況や認知症の状況等の把握に努め、情報を共有できる様に努めている。朝、夕の申し送り時には実践の結果、気づき等を報告し情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科、内科の訪問診療を受け医療的なニーズに答えられる様に連携を取っている。また、訪問マッサージ、ボランティア、散髪等多様な資源を活用しています。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	児童センターや地域行事に積極的に参加し、閉ざされた空間の生活にならない様に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医を確認し法人内の医療機関の担当医に月2回訪問診療のほか、必要に応じて訪問看護、往診などをしていただき情報交換を密に行い医療連携を図っています。	主治医は、母体医療機関であり月2回訪問診療を受けて24時間オンコール体制が取られている。他科受診は家族の協力をいただきながら支援、眼科医の訪問もある。看護師配置もあり、常時、医療連携が図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師やグループホームの看護師と連携をとり、定期的な受診以外でも変化時、緊急時はすぐ報告し指示に従っている。指導を得て職員の意識や知識の向上に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は主治医、看護師、ケアマネージャーからの紹介状やサマリーにて情報の提供を行い早期治療が行われる様にしている。また、ご家族、主治医と連携を取りながら退院がスムーズに行えるように支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでの重度化した場合、看取りに関する方針を契約時に説明し同意を頂いている。必要時は家族の意向を確認し主治医と連携し全体で支援出来るよう努めています。職員間でもカンファレンスを行い支援に努めています。	看取りのマニュアルにてホームでの看取りの方針などを説明し、実績もあり現在も看取りを実施中である。定期的な研修も開催され、看取り後は、職員全員で振り返り意見交換して次に活かすようにしている。管理者は、重度化や終末期に向けた指針の整備を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や急変に備え緊急時手順を職員が常時閲覧できるようにし、すぐに対応できるように努めています。内部研修も行いホームの看護師から緊急時や初期手当の指導を日常的に受け実践できるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>緊急マニュアルは常時職員が見える場所に置き、消防訓練、災害訓練を消防署の協力のもと行い、緊急時の対応に備えています。</p>	<p>火災想定避難訓練には、地域の協力体制もあり、家族なども訓練に参加している。5年保存食セレクトセット、水、自家発電がありそれぞれの災害に応じて避難場所が決められている。管理者は、近隣の活用し得る社会資源についても再検討する予定である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇、倫理観に関する社内研修会を行い、人格の尊重、尊厳、プライバシーや個人情報を学び、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしています。	職員は内外部の研修会に積極的に参加するよう努めている。言葉使いや排泄介助のプライバシー確保については特に注意喚起しており、利用者の尊厳を意識したケアの実現に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症により現状の見当が付かない利用者様にはなるべく自己決定ができる様に状況説明を丁寧に行っています。又、日々の会話の中で本人の希望や思いを理解する様に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の思いや、その方のペースを大切に、職員側の考え、主観にならない様利用者様が心地よくできる事をして頂く事を重視した支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	整髪やひげ剃りは出来る限り本人の力で行える環境を整えています。又、自己決定が難しい方も声掛けを工夫したりしながら、その方の思いを大切に支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は楽しい雰囲気になるよう職員と共に行っている。また利用者様の可能な範囲で準備や片付けを職員と行っています。	週2回外食サービスの利用を取り入れるなどしているが、月1回給食会議を開催して利用者の嗜好を把握し調理に活かしている。菜園での季節の野菜を活用したり、食事が楽しみなよう準備や片付けなど能力に応じて手伝いをもらいながら職員と一緒にしている。外食は家族と楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取、水分摂取を必ず申し送りで行い各自の摂取量を把握し支援しています。また、ポカリや補助食品を利用して水分、栄養の補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回食後は口腔ケアを行い、義歯の洗浄や口の中の異変の観察に努めています。また、訪問歯科との連携体制を整えています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人からの訴えや、排泄チェック表を参考に排泄パターンのを把握し声かけを行い可能な限りトイレでの排泄を支援しています。	排泄のリズムを把握したり、食事や水分調整、運動に取り組み、排便コントロールを支援しながら認知症の悪化や進行に繋がらないよう取り組んでいる。ポータブルトイレを昼夜併用される方もあるが、臭いなどなくプライバシーにも配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便ができるように排泄パターンの観察、主治医、職員の看護師との連携、指導のもと下剤の調整を行っています。また適度な運動、水分補給を心がけて支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	1週間に2回の入浴を決めているが、利用者様の希望に沿って柔軟な対応をしています。また入浴を重要なコミュニケーションの場としてゆっくりしていただけるようにしています。	希望に沿って入浴順番を決めたり、同性介助に配慮している。タイミングを図り必要性に応じて、気持ちよく入浴できるように入浴剤を活用したり、誘導を工夫するなどして清潔支援している。2階はユニット式だが、1階は異なり浴槽も洗い場も広く、シャワーキャリーなど活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調等の状況に応じて声掛けをし、就寝や休息のパターンを考慮しながら寝たきりにならない様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当医の受診後の処方箋確認を申し送り内容把握しています。又配薬、服薬時もダブルチェックを行い誤薬がないようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各人の生活史の中で海賊してできる趣味、残存機能を使ってできるレクリエーションを毎日のせいかつにのなかで取り入れた支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当施設の庭への散歩、買い物などご本人の希望に添えるように努めています。また地域の行事への参加にも取り組んでいる。	重度化が進み外出の機会が減ってきているが、家族の協力をいただきながら、散歩や外出、墓参り、外食などを楽しんでいただいている。希望があれば本人の行きたい所に外出したり、計画的に外出ができるよう検討したいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人の金銭管理は預かり金として保管させて頂き、買い物等一緒に行き利用者様に品物を選んで頂き購入して頂く支援をしています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご家族から電話がある際には、おつなぎしている。ご本人から希望がある時は職員よりご家族へ連絡しその旨をお伝えし、会話や面会ができる環境作りに努めています。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じた壁面の飾り付けなど行いフローア内に掲示している。また行事等で撮影した写真を掲示することでご本人自ら振り返られるよう環境づくりに努めています。</p>	<p>元々病院を改装した住環境であるが、車いす対応のトイレも配置され食堂兼リビングには、ソファが設置されている。壁には、季節の花々の折り紙や文化祭に出展された作品、利用者の写真などが掲示してある。男性職員も多く、2階ユニットとの合同レクや外出時の移動介助を担っている。全盲の方もおられ環境整備されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間の中で計算問題や色塗りに集中されたり、おしゃべりをされたり各自の思いどおりに過ごされている。また、居室で過ごされるかたもおられ、今後も支援を続けて行く。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時の居室づくりをする際からご本人様にとっての使い勝手を考慮し衣類や物等を取扱いしやすいようにしている。家族の写真などは特に目のつきやすいようにしています。</p>	<p>テレビ、位牌、仏壇、寝具、ベットなど使い慣れた物を持ち込み使いやすく整理され、家族写真や遺影などあり本人の安心感を得て居心地良く暮らせるよう配慮されている。本人の希望により暖簾が下がっており居室が認知できるよう工夫されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々の利用者様の残存機能、できる事をしたいという気持ちを尊重し、見守りと支援を行っています。転倒防止を含むリスク管理に十分注意し安全確保に努めています。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない